



事務局：〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-14-2 (新陽ビル7階)

TEL：03-5155-7576 FAX：03-5155-7578

E-mail jimuj@jaeis.org http://jaeis.org/

第2回全国大会開催にあたり大会企画委員長よりご挨拶

九州工業大学 西野 和典

新学習指導要領が公布され、情報科教育はこれから第2ステージに向かいます。今回の全国大会のテーマ「新しい情報科教育の内容と方法」は、まさに第2ステージの情報科教育の内容と方法を展望することを意図しています。これまでの情報科教育を振り返り、第2ステージの情報科教育への準備を開始する起点となる大会にしたい、そういう思いで皆様方をお迎えする準備を進めています。

思い返せば10年前、「生きる力」の育成を理念にした現行の学習指導要領で高等学校に情報科が新設され、教科としての情報教育が開始されました。この10年間、インターネットの普及に伴い情報社会は急速に進展し、人々の生活、経済、政治、文化に至るまで情報技術が深くかかわるようになりました。教育の情報化も進み、小・中・高等学校に新しいコンピュータ教室が整備されてインターネットに接続されるようになり、学習形態もずいぶん変化してきました。

小・中学校段階から情報教育が行われるようになった10年でもあります。高等学校では、普通教育として情報科が必修となり、また専門教育としての情報科教育も始まりました。「情報の科学的な理解」と「情報社会に参画する態度」を踏まえながら「情報活用の実践力」を育てる日本流の情報教育を、第2ステージに入る情報科教育でどのように展開していけばよいのか、本大会で行われる招待講演や基調講演、パネルディスカッション、数多くの研究発表や企画セッションで、時間をかけて議論したいと思います。

会場を提供する九州工業大学は今年創立100周年を迎え、会場となる情報工学部は、九州の筑豊・飯塚の地に1986年、日本で最初の情報工学部として誕生し、今年で24年目を迎えます。飯塚市は、かつて筑豊炭田の中心地として栄え、現在は本学を含め3大学を擁する学園都市として教育・研究を推進しています。特に、情報産業のベンチャー企業が多く、九州工業大学情報工学部と一体となって研究・開発を行い、新しい情報技術を創造する知的クラスタの一翼を担っています。この九州・筑豊の地で、6月27日・28日に第2回全国大会を開催します。皆様お誘い合わせの上、ご参加下さいますようお願いいたします。

日時：2009年6月27日(土) 9:30-17:00, 28日(日) 9:30-16:30

場所：九州工業大学・飯塚キャンパス(情報工学部) 福岡県飯塚市川津680-4

【アクセス】最寄り駅は「新飯塚」(JR九州、福北ゆたか線)

(1)JR博多駅から快速(約40分)で「新飯塚」下車

西鉄バス西相田行き乗車、約15分で「九工大入口」または「九工大」下車(徒歩5分)

(2)天神バスセンターで田川・新飯塚行特急に乗車、約1時間で飯塚バスセンター下車

西鉄バス西相田行き乗車、約10分で「九工大入口」または「九工大」下車(徒歩5分)

本号目次

大会企画委員長ご挨拶	1	近畿・北陸地区研究会のご報告	4
第2回全国大会プログラム	2	広報委員会からのお知らせ	4
高等学校学習指導要領の改訂と情報科教育	2	編集委員会からのお知らせ	4

日本情報科教育学会 第2回全国大会プログラム

第1日：6月27日（土）

9:30～12:00 一般研究発表,企画セッション

12:00～13:00（昼休み） 理事会・評議会

13:10～13:50 総会

14:00～14:30 基調講演 岡本敏雄（本学会会長，電気通信大学大学院）

14:30～15:20 招待講演：椿 泰文（文部科学省生涯学習政策局参事官）
「新しい情報科教育の内容と学校のICT環境整備」

15:30～17:00 パネルディスカッション1

（テーマ）次期教育課程における情報科教育

司会：西野和典（九州工業大学）

話題提供：永井克昇（文部科学省初等中等教育局視学官）

パネリスト：松原伸一（滋賀大学），川合 慧（放送大学）

18:00～20:00 懇親会（のがみプレジデントホテル）



第2日：6月28日（日）

9:30～12:00 一般研究発表,企画セッション

13:30～14:20 招待講演：平林純一（経済産業省課長補佐）
情報産業の視点から見た人材育成

14:30～16:30 パネルディスカッション2

（テーマ）情報科教育の内容と支援

司会：高橋参吉（千里金蘭大学）

パネリスト：池田 勇（福岡県嘉麻市教育研究所），井上義裕（日本電気株式会社）

中村隆敏（佐賀大学），村松祐子（富士通株式会社）

当日参加も可能ですが、事前に、[全国大会のWebページ](http://jaeis.org/zenkoku) (<http://jaeis.org/zenkoku>) からお申込み下さい。
参加費や大会プログラム等の詳細も閲覧できます。

高等学校学習指導要領の改訂と情報科教育 中・長期的なパースペクティブ

滋賀大学 松原伸一

高等学校学習指導要領の改訂（2009年3月9日）は、今後の情報科教育について中期的及び長期的な視野をもって考察する上で一つの契機となっており、さらなる研究活動が望まれる。ここでは、学習指導要領改訂にみられる新しい情報科教育のポイントのみを示し、今後の情報科教育研究のための礎として、「日本版Woods Hole会議」の必要性を提起したい。

（1）改訂のポイント1：科目構成

科目構成における特徴的な点として、科目の順序、科目の名称、科目の減少、の3点をあげたい。については、新学習指導要領では、第1科目は「社会と情報」、第2科目は「情報の科学」と表記され、情報教育の目標の観点と比較すると、順序にねじれが生じている。このことは、「社会と情報」が「情報の科学」に優先する論拠として人文社会系の情報学が注目されることにつながる。

については、「情報と社会」ではなく、「社会と情報」というように、「社会」というキーワードが先に置かれたことである。については、新学習指導要領では、現行の「情報A」に対応する新科目が設定されていないことから、結果として2科目の構成となり1科目の減少となっている。専門教科「情報」が、現行の11科目から13科目の構成となり、結果として2科目の増加となっていることと比較すれば対照的である。その理由は、当初の「情報A」の役割が達成されたことに加え、「情報A」で重点とされる「情報活用の実践力」が他の2観点の達成に併せて段階的に織り込まれたことによる。

「情報」は、改訂後も現行と同じように、すべての生徒に履修させる共通教科であり、生徒の能力

や適性，多様な興味・関心，進路希望等に応じて上記の2科目のうち1科目を必修修としている。したがって各学校においては，いずれか1科目のみを設置するのではなく，両科目を開設して生徒が主体的に選択できるようにすることが望ましい。また，生徒の多様な学習要求に応えるとともに，進路希望等を実現させたり，社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力や態度をはぐくむために，より広く，より深く学習することを可能にする内容を重視することを十分踏まえれば，必修修科目として1科目だけを課すのではなく，希望者にはもう一方の科目も選択して履修できるようにカリキュラムの工夫を望みたいものである。

(2) 改訂のポイント2：各科目の目標と内容

【社会と情報】「情報のデジタル化」という表現は，目標から消滅している。また，内容においてもその取り扱いが格下げとなる一方で，情報とメディアというキーワードは特徴的に使用されている。さらに，他のキーワードとしては，コミュニケーション手段，情報社会の課題，情報モラル，情報システムと人間，情報システムにおける問題解決，などを特徴的なものとして指摘することができる。

【情報の科学】「情報B」における「科学的な考え方や方法を習得させる」だけでなく，「情報社会の発展に寄与する能力と態度を育てる」としているため，今までの科学的な理解よりも，一段レベルを高めた形となっている。また，内容においては順序はともかく，学習項目に着目すれば大きくは変わっていないが，情報モラルと安全の記述が特出しとなっている点が重要である。

【その他】特記すべき事項としては，情報のモラルと安全，言語力等の育成がある。

については，ネットワーク上のルールやマナー，危険回避，個人情報・プライバシー，人権侵害，著作権等に対する対応やコンピュータなどの情報機器の使用による健康とのかかわりなどがキーワードとなる。については，生徒が主体的に考え，討論し，発表しあう学習活動を取り入れ，言語などを活用して，新たな情報を創り出したり，分かりやすく情報を表現したり，正しく伝達したり，他者と共同して問題を適切に解決したりする学習活動を重視し，言語力の育成に寄与することが求められている。その上で情報通信ネットワークや様々なメディアを活用して，新たな情報を創り出したり，分かりやすく情報を表現したり，正しく伝達したりする活動を通して，合理的判断力や創造的思考力，問題を発見・解決することができる能力をはぐくむ指導をより一層重視する必要がある。

(3) 情報科教育の中・長期的な視野によるパースペクティブ

高等学校学習指導要領の新旧対照表(1)によれば，現行の「普通教育に関する各教科・科目」という表現から，「各学科に共通する各教科・科目」という表現への変更が行われている。普通教育(General Education)という本来の意味としての基本概念に差異はないが，昨今の高等学校の教育課程の複雑な状況を反映し，いわゆる「普通科」という単純な学科構成で括る概念が希薄になっていることを象徴している。

したがって，本学会では，上記の状況を踏まえ，新学習指導要領に見られる特徴について理解するとともに，情報科教育の在り方について，短期的な視点のみならず，中期的及び長期的な視点により，「文理融合の情報学共通教育」に向けて，研究を進める必要があると思われる。

以上の問題意識を踏まえて，我が国において情報科教育に関心をもつ各界の第一人者が一同に会することで，「日本版Woods Hole会議」とも言える合同会議開催の必要性を提起したい。

周知のとおり，Woods Hole会議とは，全米科学アカデミー(NAS: National Academy of Sciences)が各学会の第一人者を召集し，米国Massachusetts州のWoods Holeにて，1959年に開催されたもので，今年の2009年という年は，ちょうど50年目に当たる。その発端となったのは，1957年のソビエトの宇宙船発射の成功が「宇宙船ショック」として，アメリカ社会，特に，学校教育に対して大きな影響を与えたことによる。当時のアメリカの教育が知的生産性の教育に著しく非効率とされ，その原因が当時の学校教育の体質(進歩主義)にあるとされたのである。その会議の結果は，J. S. Brunerにより，『教育の過程』としてまとめられている。

「日本版Woods Hole会議」についての詳細は，第2回全国大会第1日目に開催されるパネルディスカッションの原稿を参照されたい。また，第2日目に開催される企画セッションでもこの話題を取り上げる予定である。関心をお持ちの皆様のご積極的な参加を期待いたします。

1 : http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/kou/kou2.pdf

近畿・北陸地区研究会のご報告

企画委員会の近畿・北陸地区担当が、2月28日(土)に園田学園女子大学で開催された情報コミュニケーション学会第6回全国大会に共催して企画セッションとして、「新学習指導要領において、教科『情報』をどう教えるべきか」をテーマに、パネルディスカッションとワークショップを開催しました。

パネルディスカッションでは、まず鹿野利春先生(石川県立金沢泉丘高校)から「小中高の接続を考えた高校での情報モラル教育の取り扱い」を題材に、いくつかの問題提起があり、約35人の参加者全員が3つに別れてグループ討論を行いました。

次に、佐藤万寿美先生(兵庫県立西宮今津高校)が「実施する側の立場から見た新学習指導要領」を題材に問題提起を行い、同様に参加者全員でグループ討論を行いました。討論の結果は相互に発表し合い、グループ間で問題意識の共有を行いました。

後半の90分は、兵庫県立神戸甲北高校の山上通恵先生が、ご自身で開発された「パズルの解法を利用したプログラミングの基礎学習」を題材にワークショップを実施しました。このワークショップには、25人が参加し、実際にコンピュータを用いて上記題材の指導方法を体験しました。



広報委員会からのお知らせ

「情報科」実践事例の募集について(お願い)

次号から、「情報科」の実践事例を紹介するコーナーを作りたいと思います。ご自身の実践について、熱く語ってくださる方、先生の授業がおもしろいよ~という情報提供など、多数お待ちしております。

また、「うまくいった」事例だけではなく、残念だけどちょっと失敗してしまった...という事例も、よろしければぜひご紹介ください。なぜうまくいかなかったのかを、会員の皆様とともに考えていく機会になれば、と思っています。

連絡は、下記学会事務局までよろしくお願い致します。

編集委員会からのお知らせ

第2号の発行に向けて(ご連絡)

第2号(Vol.2, No.1)の発行に際し、論文募集を行う為、その準備を進めているところです。現在のところ、次号の発行は、2009年12月を予定しています。

会員の皆様におかれましては、論文募集のご案内を第2回全国大会終了後、Webページ(<http://jaeis.org>)にて、お知らせする予定ですので、心積もり下されば幸いです。

日本情報科教育学会ニューズレター No.5 (2009 vol.1) 2009年6月5日

発行所 日本情報科教育学会事務局 <http://jaeis.org/>

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-14-2(新陽ビル7階)

TEL: 03-5155-7576 FAX: 03-5155-7578 E-mail jimu@jaeis.org

発行責任者 広報委員会

委員長: 高橋参吉(千里金蘭大学)

委員: 上市善章(千葉県総合教育センター), 高橋朋子(武庫川女子大学), 天良和男(東京都立日比谷高等学校), 西田知博(大阪学院大学), 西端律子(畿央大学), 斐品正照(東京国際大学)